

平成29年度 第3回 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針
及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会 会議概要

1	審議会名	平成29年度第3回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会
2	日 時	平成29年11月10日(金) 午前9時30分から午前11時30分まで
3	会 場	本庁舎 3階 共用会議室306
4	出席者	栗田会長、細川副会長、磯野副会長、重野委員、丸山委員、大神委員、山田(直)委員、佐治委員、青柳委員、小澤委員、望月委員
5	市側出席者	宮澤市民生活部長、小林地域づくり課長、山田地域づくり課長補佐兼まちづくり推進係長、金子まちづくり推進係主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 2人
8	会議概要作成年月日	平成29年11月22日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 報告事項
 - ①平成29年度先進地視察研修の概要について
 - ②個別協働事業の評価の実施について
- (4) 審議事項
 - ①「協働のまちづくり」に関するアンケート調査について
 - ②協働計画に基づく進捗状況について
- (5) その他
- (6) 閉会

2 会議事項概要

- (1) 開会(進行:細川副会長)
- (2) あいさつ(栗田会長)
- (3) 報告事項(進行:栗田会長)
 - ①平成29年度先進地視察研修の概要について

【会長】事務局より報告をお願いします。

【事務局】松本市の地域づくり、公民館、協働推進(市民活動サポートセンター)について、それぞれ担当者からお話をいただいた。松本市は地区を中心とした特色のある地域づくりを行っている。戦後、公民館が生まれた背景・歴史が文化として市民に根付いており、市民が自ら学ぶ意欲、地域課題を解決しようとする主体性が養われてきたことが、地域づくりの大きな核となっているということであった。

【会長】視察研修参加委員より、感想をいただきたい。

【委員】公民館を中心として住民側から地域をつくることに力を入れている。35地区に設置されている地域づくりセンター、公民館、福祉ひろばが一体となって住民の活動に対応しており、地域課題を把握し、学習を通じて課題解決の連携がとれているという素晴らしいお話を伺うことができた。学びから始めるということをやっていないと、市民の自立心が育っていかないという感想をもった。また、区と公民館の捉え方の違いを感じた。自治と学習の機能をすみわけ、連携ができています。公民館主事が月2回の勉強会を行っているとのこと。安曇野市も公民館が地域に分かれているので、参考になるところがある。

【委員】協働の指針が8年前にできたとのこと。コミュニティ施設の整備がとても進んでおり、市民が身近に考えられて活用されている。また、市民活動サポートセンターに活気を感じた。安曇野市もセンターの改善をしていく必要がある。

【委員】松本市では、公民館で企画したものが何でもできると感じた。公民館の主事、または公民館長さん方が何かしようという気持ちをもたないといけない。これが松本市ではよくできていると感じた。

【委員】歴史の違いを感じた。松本市は吸収合併のため、旧松本市の中で培われてきたものが中心となって広がっている。一方、安曇野市は対等合併により、各地域の良いところを取り上げれば良いが、そうもいかないような現状を感じることもある。また、良い悪いは別として、松本市は中央公民館が施設としてあり、職員も配置し充実している。一方、安曇野市は中央公民館の所在はあるが、施設としての存在がなく、またその所在場所への職員の常駐ということもなく、その点、松本市との違いを感じた。

【委員】公民館の職員は色々なことを把握されていた。松本市も安曇野市も抱える課題は同じ。視察の説明者は、色々なことを把握した上でお話をされると良い。

【委員】公民館の歴史を知る事ができたことは勉強になった。地域づくり実行計画を策定する際に、行政内部で自然発生的に横のつながりをつくるための調整会議ができたこと、また、そこに社協も参加するようになったとのことは印象的だった。今後、支える側が減っていく中で、市民、企業、行政の協働も大事だが、福祉という分野で見た時に、児童、高齢者、障がい者等の横の連携・協働も必要だと感じた。

【委員】公民館活動がかなり活発であるという印象を受けた。安曇野市では、公民館役員もやらされ感になっている。改めて、公民館活動とは何なのか、原点を振り返り、住民の皆さんにご理解をいただかないといけないと感じた。また、松本市は福祉ひろばと一体となっているが、推測するに、「健康寿命延伸都市」というキャッチフレーズが明確にあることが大きいと感じる。安曇野市でも健康寿命を延ばしていくことは大切であるので、重点的に取り組む必要があると思う。

【事務局】職員同士の連携がとれているということを感じた。

【事務局】松本市の良さ、課題もあるが、松本市と同じことをやる必要はなく、安曇野市だからこそできることもあるのではないかと感じた。

【事務局】地域づくりとは何か、公民館とは何かを研究し、職員間で共有しながら、より一層、主体的に取り組んでいかなければならないと気持ちを改めた。

【会長】欠席委員より質問等はあるか。

【委員】第3期の市地域福祉計画及び活動計画を策定中であるが、市と社協が協働で事務局を務めている。福祉のまちづくりでは、区、公民館との連携は切り離せない。現在検討中ではあるが、公民館との連携・協働として、3つの具体的な施策を提案しようと検討している。1つは福祉学習の場、2つ目は多様な主体によるサロンの開催の場、3つ目は子育ての拠点としての場。何からどんなところから始めれば良いか、視察等を通してアドバイスがあればいただきたい。

【委員】堀金の公民館で子育てサロンを開催していたことがあるが、社協職員の異動によって衰退してしまったことがある。横の連携をしっかりとしてほしいと感じた。

【委員】住民主体の活動を側面からサポートする役割に徹していきたい。

【会長】行政に伺いたいのが、公民館を福祉学習の場等として使うことに、支障を与えてしまう制度的なこと、仕組み等はあるのか。

【事務局】行政では制度的なことはない。委員のお話を伺う中では、社協担当者の関心や実施事業の兼ね合いの中で薄れていったところがあったのではないかとと思われる。

【委員】職員の交代で事業が継続されなくなる事例はよくある。これを解決するためには

仕組みを定着していくことがカギである。仕組みが出来ていれば、担当者が変わっても、仕組みの中で継続していくことができる。また、団体の中では世代交代、後継者を育成していくことも大切だと感じる。

【委員】下の世代の育成は行ってきた。決まった曜日での活動であったが、会場を使えないことが続いたため、活動が衰退してしまった。

【会長】他の事業との兼ね合いの中で、調整が出来なかったことと思われるが、決まった日程で会場を押さえる仕組みがあれば良かった。

②個別協働事業の評価の実施について

【会長】事務局より報告をお願いします。

【事務局】行政との協働事業について、今後、協働事業の評価シートに基づき、各主体による評価を実施する。また、各主体による評価について、最終的に本委員会にて、評価・検証を行う。

【委員】評価シートに基づく評価後のチェック機能はどこになるのか。

【事務局】本委員会である。

【委員】事業が未完及び継続されるものについて、その状況等をどのように把握し、評価を行うのか。

【事務局】評価は年度単位で行う。また、状況等は、ヒアリング等により把握する。

(4) 審議事項

①「協働のまちづくり」に関するアンケート調査について

【会長】事務局より説明をお願いします。

【事務局】アンケートの調査目的は、現計画の評価・検証及び第2次計画策定に向けた市民のご意見の反映である。12月中に実施し、アンケート結果は、次回の委員会で報告する。アンケート票について事前にご意見をいただいたが、次の2点について、どのように反映させるか、皆さまに伺いたい。1つ目は、「支え合い、助け合い」という表現であるが、具体的にイメージしづらいのではないかと、というご意見について、2つ目は、市区長会が策定した「コミュニティ・マニュアル」の認知度を図る問いの追加について。

【会長】アンケートの調査目的を踏まえてご意見をいただきたい。区の加入の有無に関する問いについて、「現在加入していないが今後加入したい」という選択肢があるので、「現在加入しているが脱会したい」を選択肢に追加することで、より実態を把握できるのではないかと。

【委員】人口減少の中でも世帯分離等で世帯数は増えている。そのため、区加入率は減少している。区加入の対象とする「世帯」をどう定義づけるか。各区にとっても悩ましいと思われる。

【委員】世帯の考え方は区ごとに決められているのか。

【委員】居住する区では、その定義はされていない。

【委員】区未加入は悩ましい問題。各区で世帯の取り扱いは異なる。世帯数が増え、また、高齢化の中で、加入率が下がっている。また、転入者、特に集合住宅居住者は未加入なことが多く課題である。

【委員】隣組には加入するが区には加入しない世帯もある。そのため、未加入の理由は、「その他」の選択肢で個別に把握できるようにした方が良い。

【会長】「支え合い、助け合い」の点はどうか。安曇野市民にとってイメージできるのであれば、このままで良いと思うがいかがか。

- 【委員】 一般にご近所付き合いの中で「助け合っていこう」という会話は出てくる。
- 【委員】 支え合い、助け合いの表現は、このままで良いと思う。また、未加入の理由は、親世帯が加入しているから、という回答が多いのではないかと思う。個別には「その他」の選択肢で把握できれば良いのではないか。
- 【会長】 「コミュニティ・マニュアル」の問いの追加についてはいかがか。
- 【委員】 全体として傾向が分かれば良いので、あまり問いを増やして回収率が下がってもいけない。
- 【委員】 全体的に質問数が多い。
- 【委員】 質問数が多いため、試しに回答してみたが大変である。何とかお答えいただかないと貴重なデータは得られない。
- 【委員】 問いを追加するにしても、認知度を図る程度だと思うが、それも、他の質問である程度把握できるのであれば、あまり緻密にする必要もないのではないか。
- 【会長】 今回のアンケートでは、追加しないということで良いか。（異議なし）

②協働計画に基づく進捗状況について

- 【会長】 事務局より説明をお願いしたい。
※平成29年10月31日現在での計画の進捗状況及び評価について説明。
- 【会長】 事務局から説明をいただいた。現計画をどう推進していくか、それぞれのお立場から活発なご審議をいただきたい。
- 【委員】 地域リーダー育成講座について、受講した方のその後のスキルアップの講座等は今後どうするか、また、まちづくり推進会議のワーキンググループの募集はどうするか。
- 【事務局】 地域リーダー育成講座受講生のその後のスキルアップについて、現状では、講座等は開催していない。様々な事業の案内を随時送っている。また、まちづくり推進会議のワーキンググループの中にも参画いただくことを考えている。ワーキンググループの募集であるが、推進会議へ提起された課題ごとに、必要なメンバー、団体を選定することとなる。
- 【委員】 地域リーダー育成講座は、現在の内容で10回だけでは修了証しか出せない。きちんと認定までできるようにフォローしていった方が、リーダーが育つと思う。経験が一番である。
- 【事務局】 講座をどうするか、ということについては当時委員会でも検討していただいた。認定までやったらどうか、というご意見もいただきながら、最終的には、10回の講座の中では難しいであろうということとなった。その代わり、その後の実践の場が必要だろうということから、まちづくり推進会議に入っていたらどうかということだった。経験をしながら学んでいくことも必要であるが、ご意見のとおり、どこかでフォローアップしていく仕組みも必要だと思われる。
- 【委員】 地域リーダーの育成について、モデル区の選定とあるが、どのように選定しようとしていたのか。
- 【事務局】 地域課題に直面しているのが区である。しかし、区長や区役員は多忙すぎることから、区長をサポートし、課題解決の企画ができる人材を増やしていこうというねらいがあった。しかし、83区一斉には難しいので、モデル区として事例を広げていこうと計画に入ったが、受け入れる側の区長が多忙で、さらに部制度等、大きな変革の時期にあるので、それがあがる程度落ち着いた中で、地域課題解決の人材育成が必要だと考えている。

【委員】 協働事例集について、市民活動サポートセンターのホームページで閲覧できるのか。センターのホームページで事例等の情報が閲覧できる仕掛けができていれば良いと思う。また、更新や意見の受付などの機能の充実も必要と考えるが、現況について尋ねたい。また、地域リーダー育成講座について、理屈ではないので、座学では何回行っても難しい。県の長寿社会開発センターの講座では、参加者がグループをつくって1年を通して企画、実践まで取り組む養成内容となっている。理屈よりも実践が大切である。

【事務局】 協働事業事例集は市ホームページで公開している。センターのホームページでは公開できていないが、現状、冊子を設置し、閲覧できるようになっている。また、地域リーダー育成講座の第1期の後半では、実践形式で行った。第2期ではできなかった。今後、いただいたご意見を参考にしたい。

【委員】 くりりん広場に行き、コーディネーターから、施設を使う団体のニーズと内容があっていないということや、訪問者がいないことなどをお聞きした。センターの機能充実が他の部分にもかなり影響をしているので、きちんと考えていく必要があると感じた。そのようなことを議論し、団体のニーズを把握するような場があるのか伺いたい。

【事務局】 コーディネーター及びサポーターと、毎月、調整会議を開催している。センターのあり方、目的を常に共有しようと進めているが、取材先の調整等に留まっているのが現状であり、改善をしていかなければならないと考えている。

【委員】 市民活動サポートセンター登録団体数について、現状62団体の中で、平成29年度末の目標登録団体数が150団体となっている理由を伺いたい。

【事務局】 市総合計画後期基本計画の目標数字として掲げている。これまで増加できなかったが、本年度、何とか近づけようと取り組んでいる。

【委員】 登録してもらった団体の活動が活性化し、継続できるような支援を充実させていくことが良いと感じる。

【委員】 塩尻で活動しているが、松本と塩尻に登録している。情報が来ると会場が使えるというメリットで登録している。団体が登録したいと思うメリットが無いと、団体数は増えない。会場の予約はできない、また、昼間しか利用できないとなると、使いづらさもあるのかと感じた。今後、どのように考えるか。

【委員】 登録したらすぐにコーディネートされるのか。ネットワークづくりは、私の団体では既にできているので、さらに増えたら困るという思いもある。

【事務局】 ご相談に応じてコーディネートするのがセンターの役目である。

【会長】 登録することのメリットを生み出す余地はあるのか。

【事務局】 以前より、登録団体の皆さんにとって、センターを無料で利用できることが一番のメリットであるということもあった。しかし、公共施設であるため、一部の団体しか利用できないことについては一度リセットした。貸館業務は重要であるが、センターは穂高支所の一部であるため、センターの設置条例を制定し、金額を決めて実施するようになる。しかし、周知も利用率の向上も中々できていない中では難しいと考えており、また、現状でも、まだまだできることはあると考えている。ソフトを充実させていく中で、現在の場所も含めて、今後再検討していく時期がくると考える。

【会長】 現状でできることというのは、貸館ではなくて、情報提供を意味しているのか。

【事務局】 情報提供及び入手についても仕組みはつくったが、不十分であるので、研究の余地はある。そのようなことを充実させ、欲しい情報がすぐに手に入る、あるいは、相談がしっかりできるスキル、ノウハウの向上など、再構築していく必要がある。

【委員】 塩尻の「えんのわ」でも相談業務をやっているが、日にちを決めて、相談を待つて受ける形で行っており、やはり件数は伸びていない。以前は、各団体に出向いて相談事を尋ねまわっていた。その時には、団体から課題に思っていることなど沢山の話を聞くことができた。大変だが、出向いて情報を集めることもやり方の一つである。

【事務局】 「えんのわ」のように団体にお願ひできれば一番良いと思うが、現状、非常勤職員3人で日替わりにより、一人体制で常駐しているため、中々外に出ることができない体制である。ある程度、充実したところで検討が必要と考える。

【委員】 以前よりセンターに関わっているため、現状に非常に危機感を感じている。コーディネーター、サポーターを含め、抜本的に改革をしないとしない。調整会議も議論が充実していない。出席者も減少しており、せっかくの火が消えないようにしないといけない。

【委員】 くるりん講座に参加した時に、以前から気になっていた団体とつながる機会ができた。コーディネートが形になったことを通信等で紹介していただくことができれば、メリットも感じてもらえるのではないかと思う。

(5) その他

特になし。

【会長】 以上で全ての議事を終了とする。

(6) 閉会

【副会長】 平成29年度第3回協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり行動計画策定・評価委員会を閉会します。慎重審議をいただきありがとうございました。

以上